

AGMCにおける 手指衛生指標の推移

AGMC-QI20001

< ICT >

手指衛生の方法と評価法

いつ行うか

WHOの5つのタイミング

何を使うか

石けんと流水の手洗い
vs. 擦式アルコール製剤

正しい方法で

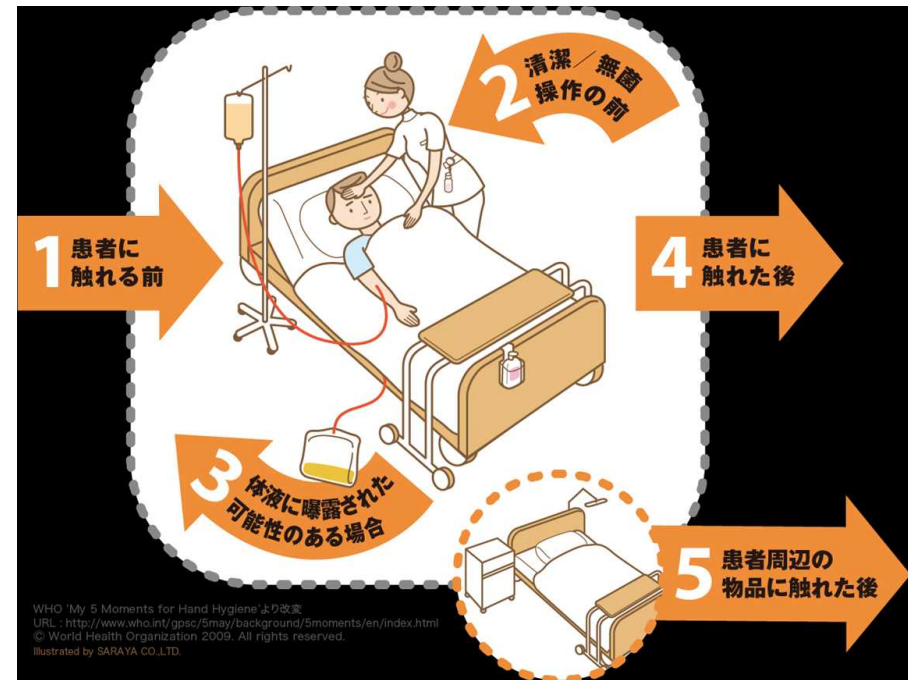
爪の先や指の間も確実に

評価法

直接観察 vs. 間接評価

アルコール消費量により代用

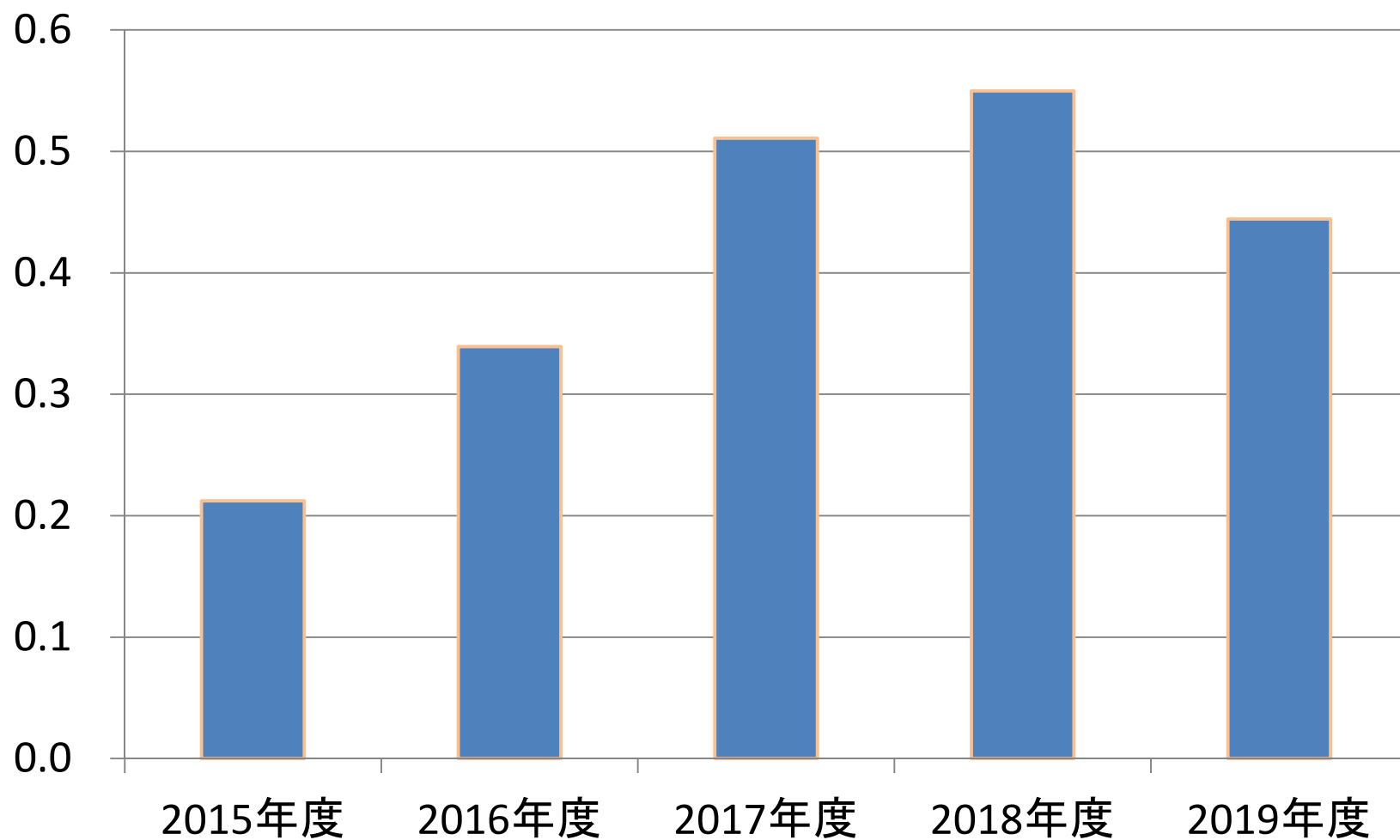
(アルコールジェルは1回1ml 換算で使用回数を算出)



	利点	欠点
直接観察	確実	手間、観察者による不一致
アルコール消費量	簡便、病院や部署全体の傾向把握	タイミングや手技の評価不能
自己申告・患者による申告	安価	過大評価 医療者不信

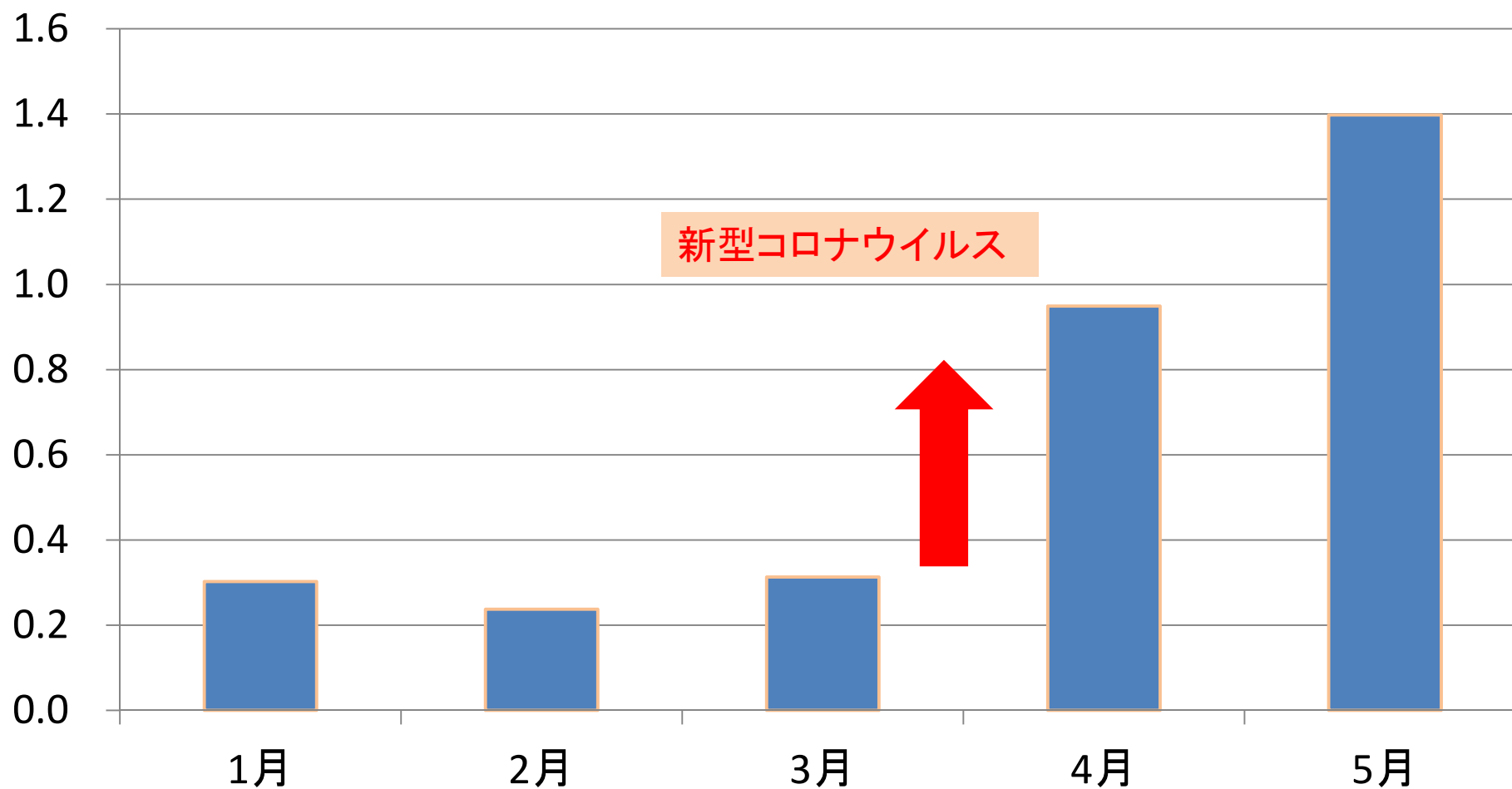
- アルコール消費量と手指衛生遵守率が相関するという報告と、相関しないという報告あり

外来1患者あたりの手指衛生回数 年次推移



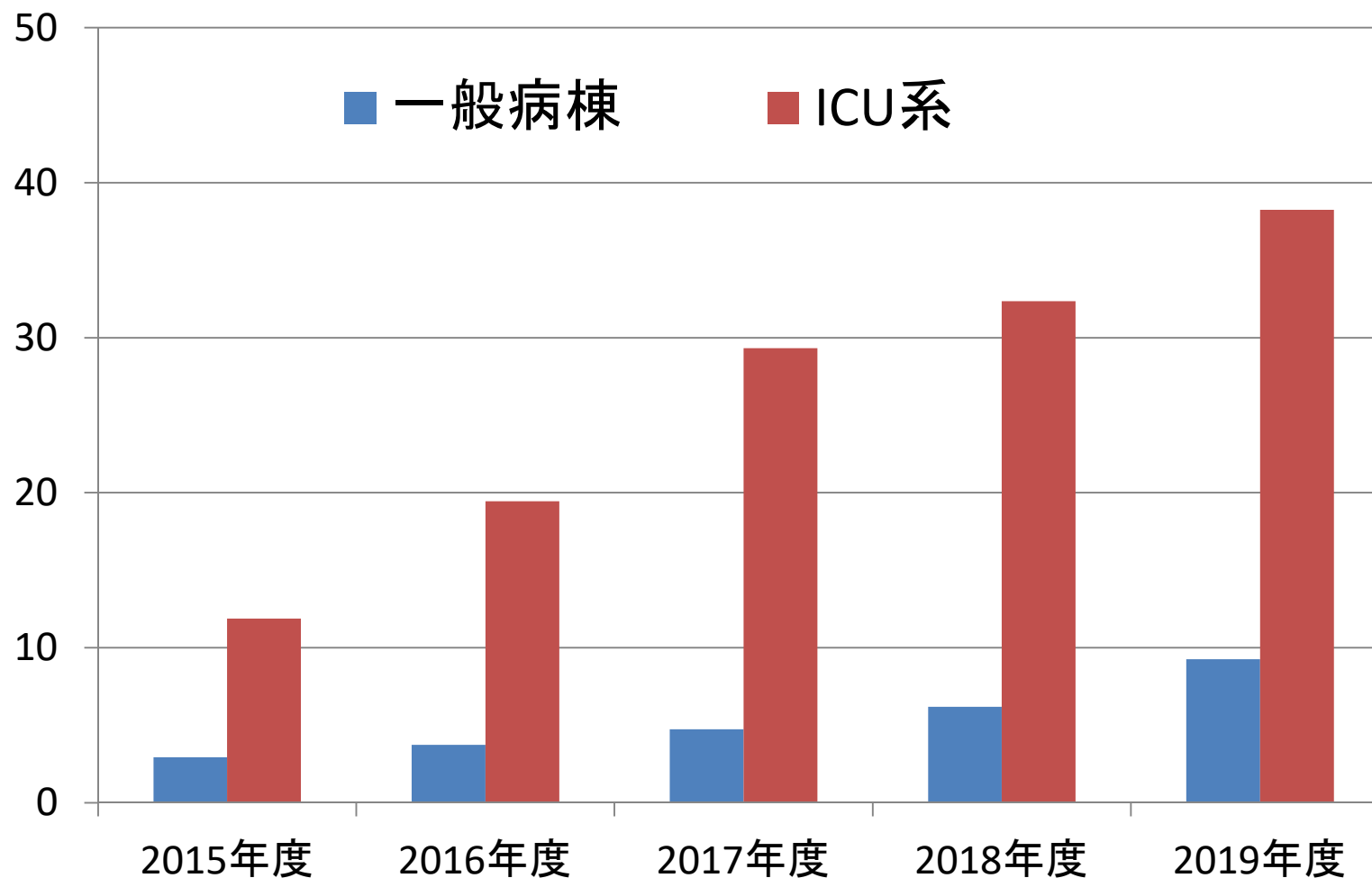
※ 外来で集計されたアルコール消費量を単純に外来患者数で割って算出

2020年の外来1患者あたりの手指衛生回数



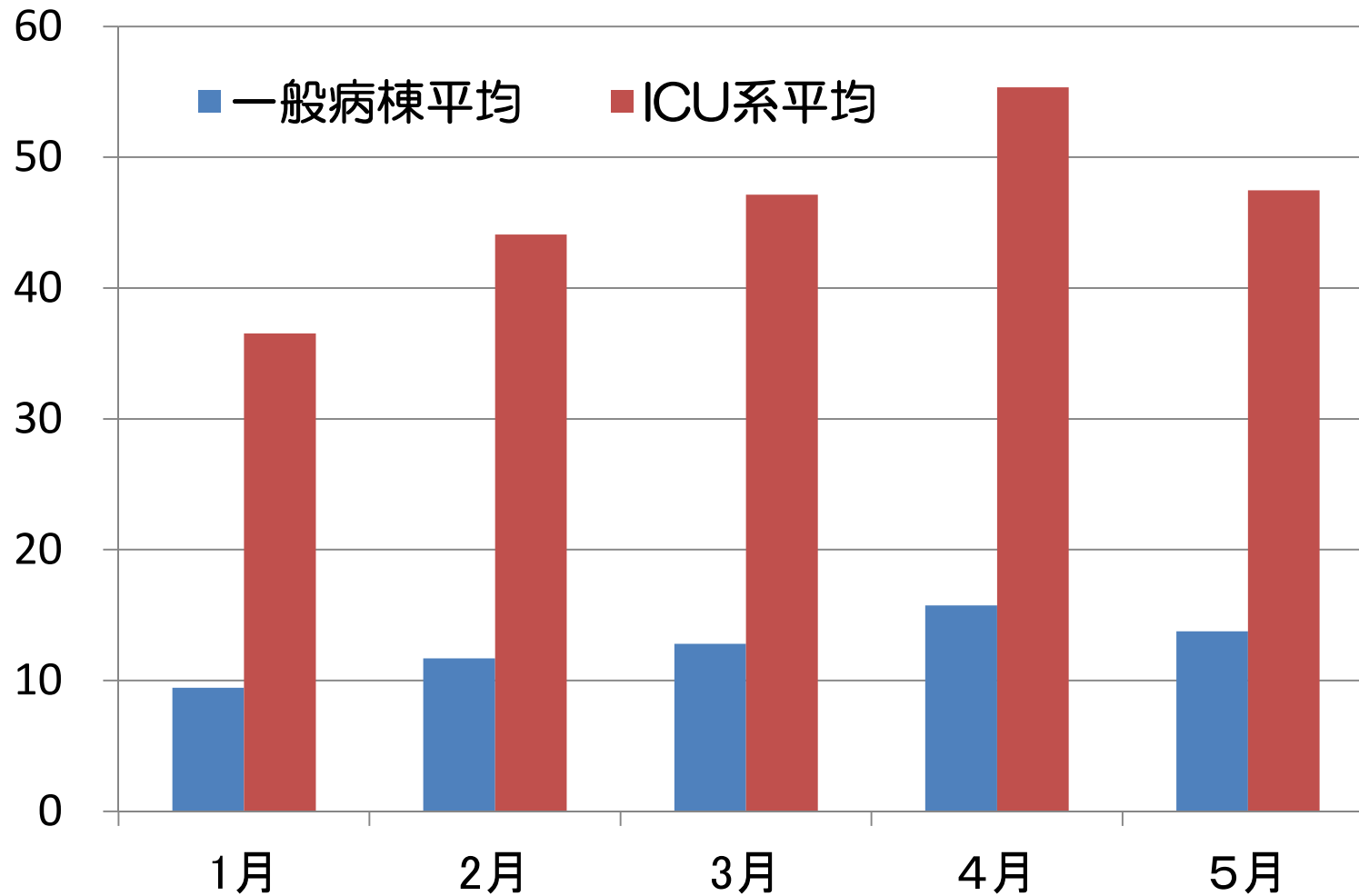
手指衛生回数 年次推移

1患者1日あたりの回数、アルコールジェル1ml/回として換算



2020年 月別手指衛生回数

1患者1日あたりの回数、アルコールジェル1ml/回として換算



* 4月/5月は新型コロナ対応病棟を除いた値:5月アルコール供給が一時停滞

現状と課題

【現状】

- アルコール手指消毒剤の消費量は年々増加している
- 希望者に対する個人携帯用ポシエットの配布や手荒れ防止のための非アルコール性製剤、スキンケア用品の導入を行っている
- しかしながら、まだ十分な使用に至っていない
- 使用のタイミングの適切さについて未評価

現状と課題

【目標】

- 新型コロナウイルス流行による、手指衛生に対する関心の高まりを継続、維持
- 医療行為のみならず、患者環境への接触時の手指衛生の向上
- プロセス指標として、入院患者1人・日あたりの目標値
一般病棟 27回、 ICU 100回
外来1患者あたり 2回
- アウトカム評価として、
院内アウトブレイク防止と耐性菌検出率の低下

【対策】

- 手指衛生のタイミングの再教育(e-Learning)
- データの掲示・公開による競争心の育成



World Health
Organization



**SAVE LIVES
CLEAN YOUR HANDS**



**CLEAN CARE
FOR ALL
IT'S IN YOUR
HANDS**

#HandHygiene

#InfectionPrevention

#HealthForAll